

始めの式を行ふ。式は 御影奉拜に始まり、勅語並に昨年十一月に下し賜ひたる 詔勅を捧讀し、次で、正木「直彦」學校長は、詔勅の旨を躰して、職員生徒は勤儉自ら持し、自彊已まざるの覺悟を以て此新年を迎へ、奮勵努力せざるべからざる旨、告辭を述べられ、兩陛下の萬歳を三唱して式を終りたり。

○職員を送迎會 本校職員一同は、舊臘十二月十九日を以て、荒木「寛敏」、下村「觀山」、辻村「延太郎」の三教授及藤本「万作」囑託教員の先般引退せられたると、古宇田「実」休職教授の退營せられたるとに依り、その送迎會を催し兼て忘年會を開きたり、場所は公園内常盤華壇にして、會するもの五十名許りなりしといふ。

○本校一覽の配付 本校一覽は舊冬それぞれ配付の都合なりしも、印刷間に合はず、此程に至りて漸く出來せしを以て、例に依りて本月下旬には卒業生一般に配付せらるべし。

○職員の義捐 先般伊太利に於ける震災の慘狀救助に充つるため、本校職員諸氏は相謀り、金貳拾五圓を醸金して救濟金の中に納付したりといふ。

関連事項

① 帝国図書館敷地・建物移管

明治四十一年三月、隣接する帝国図書館敷地のうち本校敷地に喰込んでいた部分三七〇〇坪と建物三棟（煉瓦造り三階建倉庫、木造二階建閲覧室、煉瓦造り二階建倉庫）が本校所管に移された。建物の方は既に同三十九年五月に本校が帝国図書館より借用し、文庫として使用していたものである。明治四十年より文部省は本校の大規模な

改築計画に着手しており、これとの関連で敷地の移管が行われたものと考えられる。

② 成績品展覽會

明治四十一年三月二十九日、即ち卒業式の翌日より四月三日まで校内で成績品展覽會が開かれた。一般公開は明治三十五年以来のことであった。展示物は日本画科生徒の平常成績（写生、臨画、新案）と卒業製作および四教授の作品、西洋画科の三、四年生の平常成績（コスチューム、静物画）と一、二年生の平常成績（木炭画、静物画）、卒業期制作（随意題）、卒業制作（自画像）、彫刻科、図案科、金工科、鑄造科の平常成績と卒業制作および参考品、図画師範科の図画、手工作品（木炭画、鉛筆画、毛筆画、粘土細工、造花）および「教育的作品」、参考品（旧教官作品、明治二十六年〜同四十年彫刻科卒業制作、現職彫刻教官作品、本校所蔵古美術品、住友家依囑大阪図書館青銅額）等々でこれらが本館、新館、文庫閲覧室および書庫に陳列された。成績品の出品は六百四十五点で、そのうちの三十七点が売約となり、また、各科の即売所（絵葉書、風呂敷、手拭、ハンカチ、石膏品、裝飾兼実用品）では絵葉書が飛ぶように売れた。総入場者数は一万三千四百四十四人。一日平均二千二百三十五人の入場があった。

この展覽會で特に一般の関心を惹いたのは日本画科と設置後六ヶ月たった図画師範科で、前者については『東京美術学校校友會月報』第六卷第八号所載「我校の成績展覽會」中に次の記述がある。

新館〔下村觀山、鶴田機水指導の新館教室〕の作品は、寫生、臨